



同志社校友会北海道支部 機関紙「紫友」再刊に当たって

支部長 山川 寛之 (昭和四十四年経済学部卒)

日本経済に失われた十年が存在したように、同志社校友会活動にも同様の沈滞の時期があったと考えている。それが今、ここに来て会長に財界現役の実力者・井上礼之さん(ダイキン工業株式会社

社長)と言う素晴らしい先輩にご就任いただくや、見違える程の変革の波が起きている。他の有名私大にこのままで負けてしまうと心配したことがまるで嘘のように思える。あの一連の内紛劇と裁判沙汰は一体何だったのだろう。

当時の沈滞が地方の我々の校友会活動に特段の支障をもたらしたとは全く思わないが、それにしても今は昔と違つて様変りで、来年2013年のNHK大河ドラマ「八重のさくら」(新島八重夫人が主人公)放映に向けて、同志社のブランド向上を期し、大学と校友会が連携して実に好ましい関係で動いている感がある。そのキッカケが不幸な東日本大震災や福島原発事故によるものとは言え、全同志社にとって存在感を示す正に千載一遇のチャンスである。

また、お陰様で札幌支部の永年の校友会活動が評価され、二年前からその代表として私は同志社校友会理事を拝命しており、より一層大学と校友会が一体的

に動き出している姿を実感させられていることは、永年校友会活動に関係する者として、誠に喜ばしく有難いことである。

私は平素からの持論として、「待ち」や「前例踏襲」は悪で怠慢だと考えている。積極的に慶応大学や早稲田大学には無い宗教的精神的バックボーンを持った唯一の私大である特徴を大いに活かして、変化し、両大学を凌駕する同志社ブランドを立派に確立したいものである。

それこそが校祖・新島襄の建学の精神に沿うことではないだろうか。敵対視するのではなく両大学OB会の良いところを積極的に吸収する。各界に於いて活躍する先輩達が、斯界の後輩達の面倒をみる。それ等の小さな動きや企ての積み重ねが重要で大切だと考える。凡事徹底「平凡で小さなことの積み重ねで、非凡な状況を創り出したいと念願している。

「紫友」再刊に当り、思いの丈を述べてみました。今後益々、地方の校友会活動が若い方々の参加交流によって活発になることを熱望してやみません。



同志社の絆と縁の深さ

木佐木 翠子 (昭和四十年文学部卒)

昨秋の同志社ホームカミングデー。今出川キャンパスの一角に「同志社札幌支部ヒグマ隊」のハッピをまとい、ジヤガイモやホッケなどの北海道物産販売に出す私。北海道で私達夫婦を温かく迎えてくれた同志社札幌支部の人たちとの久しぶりの再会だった。

平成6年2月4日朝、日本初の国産H2ロケット1号機の打ち上げのテレビ実況に、私は胸をドキドキさせていた。秒読み後、LE7エンジンに着火され、轟音と共にロケットが天空へと飛び出したあの感動の瞬間が今も脳裏を離れない。日本の宇宙開発に長く携わり、LE7開発最終段階で責任者だった夫の苦勞が報われた瞬間だった。

その感激の「打ち上げ成功祝賀会」で、夫は新会社設立のため北海道への転勤が決まった。愛知県小牧市では殆ど母子家庭だったが、夫婦の絆を取り戻す二人

の札幌生活がスタートした。親戚も友人もいない生活に潤いを与えてくれたのが同志社札幌支部の仲間たちだった。支部総会や諸々の行事に参加し、楽しく札幌生活を12年余も満喫できた。

平成20年夏、私は夫と京都の実家へ帰洛した。同志社女子中でデントン先生の秘蔵っ子だったという母。大学でESS仲間だった両親。戦争で父はシベリアに抑留され、5人の子供を連れて満州から引き揚げてきた母を支えてくれた同志社のグイン先生とクラブ先生。父の恩師の住谷悦治総長、田畑忍先生。母の女專の友人や兄たちの友人。松山総長のゼミだった姉や私の新聞学仲間など、私はなんと同志社との絆や縁が深いことかと今更ながら感慨を新たにしている。今出川と新町校舎の通路にある実家は、いつも人が集まっておしゃべりを楽しむサロンだった。

結婚で京都を飛び出し、小牧・種子島・札幌を経由して京都に戻った。まるで「はやぶさ」の奇跡的帰還のようだ。貴重な思い出の詰まった札幌生活のおかげで、夫婦で京都を歩き回り、両親と同じように同志社人たちの時間を楽しんでいる。





キリスト教主義と社会福祉

副幹事長 沖 浩介 (昭和五十九年法学部卒)

父が他界して十年かと柵にふと目をやったとき、奥に仕舞い込んでいた昔のアルバムを取り出して開いてみた。一枚の写真が目にとまった。半世紀前の沖一家の姿がそこにあった。セピア色で表面はひび割れがあるが、極めて鮮明である。勿論、赤児の私には記憶は無い。優しくかつた母の抱擁に右手を軽く握られ嬉しかったのか、私は満面の笑みを浮かべている。父は、東京の製薬会社を退職し自衛隊に任官して間もない頃か、制服を纏っている。虚弱であった私はいつも家族に心配と負担をかけたようだ。今在るのは家族と支えてくれた周囲の人々のお陰だ。感謝と懐古の情で胸が熱くなる。

昨年、多くの尊い人命を奪った震災は、皮肉にも家族の絆を深くする方向へと作用した。社会福祉の原点は、家族愛かもしれない。戦後、家族変動で最も顕著なことは、同居家族が減ったこと。急速な都市化による地域共同体の崩壊に伴い、家族の基盤が変容した。家族機能が不全状態に陥った。核家族や孤立死、無縁社会という言葉まで生まれた。家庭ではドメスティックバイオレンス、高齢者や児童への虐待など痛ましい事件報道が日常化している。まさに社会病理と言え

るだろう。

これらの問題に社会福祉は、どのように対峙するのであろうか。そもそも社会福祉は、人が生活する上でセーフティネット、平均的な日常生活を維持するうえで必要不可欠な援助制度である。援助者の養成には、崇高な理念の元での「徳育」が必要である。

同志社にも大学レベルで日本最初の社会事業学専攻として社会福祉学科がある。戦後間もなく日本最初の大学院社会福祉学専攻も創設されたほどである。同志社の教育理念は、もちろん、「キリスト教主義」である。一国の「良心」と言うべき「丈夫」の養成だ。社会福祉教育の根幹となっている。

今から十年前に私は再び大学の門を叩いた。北星学園大学の校祖サラ・クララ・スミス先生もキリスト教の伝道師及び教育者である。半世紀に亘り札幌の女子教育の発展に大きく貢献した人物である。新島先生と共通する。同志社も、多く社会福祉実践者を世に輩出した。最初の一人は、日本の代表的キリスト教社会事業家で北海道遠征に児童自立支援のため「北海道家庭学校」を創設した留岡幸助氏。二人目は、寧ろ戦前の方々にと

が人のためになつていくかどうかである。人への思いやりの精神が、透徹されていなければならないのである。

今、日本の社会福祉は疲弊し、先が見えない状態である。社会保障、年金制度と合わせて再構築すべき、もう限界の時期にきている。この閉塞状況の中で、社会福祉実践者の育成には、何が求められるのか。教育、実践、研究の三位一体も重要である。しかし、新島先生の悲願に呼応して、「良心を手腕に運用すること」「良心」の意味を再度、熟考してみる必要があるのではないかと。つまり、「なぜ社会福祉の仕事に従事するのか」、さらに言えば、「なぜ、人を援助するのか」、「なぜケアをするのか」について一人ひとりが今一度、照顧脚下することが肝要だ。この閉塞状況から脱出するには、王道はない。大学院を修了し、特別養護老人ホームユニットケア施設二か所の立ち上げに参画した。箱ものだけでは、唯のモノにすぎない。真の意味で人と人が交わる空間が要る。魂を入れなければ、人も物も生きる屍だ。物も霊的な存在だからである。このことを痛感した後志の倶知安から札幌に戻り、孤立死ゼロ推進事業にも携わった。社会福祉的色彩の濃い支援だ。人と人が繋がる必要性をより実感した。先月より、新しい事業に進出する事業法人のプロジェクトに参画することになった社会福祉実践者として、また、同志社人として恥じない仕事をしたかった。ただただ願うばかりである。



同志社校友会と私

中村 友宣 (平成十二年商学部卒)

私が同志社校友会の活動に参加し始めて三年になります。三年前は、父の税理士事務所に入社し、税理士登録をしたばかりでした。この頃やつていたことは、税務申告書の作成・顧問先の経営者との打ち合わせが中心でした。

しかし、日々その繰り返しにせいか、税務・経営・法律等の専門分野だけを学ぶことが多く、専門外には疎く、視野が狭くなっている自分に気がついたので。この思いから常日頃、同業者や顧問先以外の方とも交流ができればいいかと機会を窺っていたのです。

好機が訪れました。銀行の方が、私の事務所に転勤の挨拶に来て話をしてもらううちに、この方が同志社の先輩であることが判りました。そして、後日、山川支部長を紹介されたのが同志社校友会に参加する契機になったのです。

初めて参加した行事は、二ヶ月おきに開催される月例会でした。偶然にもTV番組やCMに出演経験のある中村浩美先生(航空宇宙ジャーナリスト)がゲストとして参加していました。今、思えば、同志社大学出身の著名人に会える機会は少ないので、貴重な経験をさせて頂きました。同志社校友会では、月例会、ゴル

つて懐かしい響きのある救世軍、その日本の指導者であった山室軍平氏を挙げたい。特に山室氏は養子に出されたが向学の念止みがたく家出同然で上京する。そこでキリスト教に接し、徳富蘇峰氏から新島先生のことを聞き同志社に入学的。同志社時代は苦学をしながらも抱懐していた平民伝道を畢生の事業と覚悟したほどの人物である。両氏の福祉への思い、そして将来の日本の福祉が進むべき方向にいかなる思いを馳せていたのであろうか。

かかる所懐から、私は、常日頃、社会福祉とキリスト教主義の相関について大きな関心を抱いていた。文献によれば、教義上の義務ではないらしい。キリスト教は、隣人や貧者への善行を伝統的に奨励し、このため病人や旅行者あるいは貧者を対象とするキリスト教関係者の慈善活動は古来より盛んに行われたようである。この慈善という言葉が今日の社会福祉の流れの中で社会福祉活動にも少なからず繋がっているものと推測される。

同志社といい、北星といい、両学ともキリスト教の倫理、教えをベースにキリスト教主義大学の存在意義を見出している点は、社会福祉の根幹である「人が人を援助する」要諦そのものを端的に表しているのかもしれない。援助には愛が必要か。「敬天愛人」を唱えた西郷(南洲)隆盛は、余りにも有名である。福祉の実践は、人を愛せなければ果たしてできな

フコンペ、クリスマス会、お祝いの会等の行事が行われ、予想以上に活発なのはたいへん驚きました。友人らに毎月のように活動があるんだよって自慢すると、皆驚き羨ましがります。私の周りには出身大学のOB会に参加している人はいなく珍しいようです。ですから、同志社校友会の話をするだけで、同志社大学の知名度アップにつながるものと期待しています。何せ、同志社大学のことを知っている人は周囲には少なかつたのですから・・・

正直なところ、私自身、同志社大学の歴史や新島先生のことを学ばずに卒業しました。実際には、私のように卒業してから、母校を振り返ることが多いのではないのでしょうか。職場を離れ、東の間であつても私にとって癒しとなる同志社校友会は学ぶ場であり、良い勉強の機会になつていくことに感謝しております。

最近、先輩から頂いた文書に、同志社大学設立の旨意が記載されていました。《一国を維持するは、決して二、三英雄の力に非ず。実に一国を組織する教育あり、智識あり、品行ある人民の力に拠らざる

いのであろうか。私はできないと考える。フィロソフィの訳は哲学である。語源はギリシャ語で愛智の意味がある。制度の知識、政策への理解と援助技術を学んでもまだ足りない。社会福祉の方向付けには哲学が不可欠だ。なぜなら、貧困者や障がい者を救うために人々はなぜ身銭を切る(納税や保険料負担)必要があるのかということに對し、答えが出て来ないからである。貧困者や障がい者を社会的弱者とするならば、キリスト教の本質である彼らを真つ先に救うことこそが真理であると言えないであらうか。真理は一つしかないはずだ。

私が、社会福祉の分野に転職したのは、介護保険制度の発足したときである。介護保険は、社会保障であるが本来の社会福祉ではない。国は福祉に市場原理を導入し、サービスの質の向上という大義のもと競い合わせた。社会福祉法を改正し、民間の事業者が多く参入できるようになったわけだ。しかし、利益追求に基軸が置かれ、福祉の精神はなかなか涵養されなかつた。不正受給により指定が取り消され、経営破たんしたコムソンの事例は記憶に新しい。経営母体は、社会福祉法人であろうと、株式会社のような営利を追求する事業法人であろうと問題ではない。大事なのは、事業目的である。これを実現するためのすべての企画がサービスに向かつていくかどうかにある。誤解があつてはならない。サービスとは単なる奉仕を意味しない。つまり、事業

可からず。是等の人民は一国の良心とも謂ふ可き人々なり。而して吾人は即ち此の一国の良心とも謂ふ可き人々を養成せんと欲す。吾人が目的とする所実に斯くの如し。》

卒業して十年以上経ちます。これからも智識、品行を学び、研鑽を積み、同志社人として恥じない校友会活動を行って参りたいと決意を新たにしています。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。



真理似寒梅

敢侵風雪

開

真理は寒梅の似し 敢て風雪を侵して開く

人物点描・新島襄

新島精神と武士道との相関について

常任相談役 武谷 洋三（昭和四十四年法学部卒）

校祖・新島襄の人間像とその精神につ

いては、これまで実に多くの学者、研究者、評論家が語り、論述してきた。しかし、その急所をえぐり、真髓に迫り得た人物は、徳富蘇峰をおいて右に出る者はいないと私には思われる。

蘇峰は、創立当初の同志社（英学校）に入学し、新島襄の警咳に直に接し、生涯

変わることなく『唯一無上の師』と仰ぎ、新島危篤に際しては夜を徹して看病し、臨終に際しては十箇条の「新島遺言状」を筆録した人物に他ならない。生きた等身大の新島襄を実見し肌身に接した人と、後の世に、残された資（史）料をたぐって書いた人との人物、肉迫度には当然のことながら、雲泥の差が生じる。

では、その徳富蘇峰なる人物とは一体何者だったのか。この戦前、言論界の巨魁^{きがい}について、あらかじめその巨大な輪郭に少しく触れておかねばなるまい。

先ず第一に、古今に絶する著述量を誇る文壇の巨人であった（代表作近世日本国史は、実に全二〇四巻・二六〇〇万字、完成まで

40余年の歳月を要した）。

第二に「民友社」を興して「国民新聞」

を主宰し、明治、大正、昭和三代に亘つて国民世論に計り知れない影響を及ぼしたジャーナリスト、評論家であった。

第三に、ここが見落とせないところであるが、支那でいうところの「縦横家（諸子百家の一つ）」のような人脈の広さと厚みを誇ったことである。

若年より勝海舟をはじめ、伊藤、山県、松方、井上、板垣、大隈等々、明治の元老・重臣軍人らおよそ高名な人物で直に交誼を結ばなかった者はいなかったと言つても過言ではない。「伝記」も多数残している。従つて、その「人物鑑識眼」は深く、人間の虚実、機微の実相に迫るに細緻を極めていなのだ。新島襄を語つて正鵠^{せいこく}を射たであろう人は、蘇峰をもつて空前絶後となすと私が唱えたい所以である。

洗礼を受けたる吉田松陰——新島襄

その徳富蘇峰が、八〇歳の時に新島襄を評して次のような漢詩を詠んでいる

し、以て「国益」に寄与せんか、その覚悟の程がうかがえる。確かに新島襄は清教徒主義（ピューリタニズム）が醸す道德的清らかさ、潔癖さ、自制、謙虚、礼節といった美しい徳目を全身に蓄え、そして発散した人である。また「農夫も將軍もひとしき人間なり」の平等観を、徹底して実践した人であることは申すまでもない。

しかし私には、繰り返すが、新島襄先生はキリスト者である前に吉田松陰同様、幕末の国難に際して経国済民の志に燃える（武士）であった点を決して見逃してはならないと思う。

蘇峰も言う。『清教徒の精神は、新島固有の武士道精神に厚みと強みと新たな風格と美しい風韻（おもむきのあること。風趣を加えたるに過ぎなかつた）』と。

ただ私は、新島の徹底した「平等思想」と「愛民の深さ」——これは、渡米しニューヨークランド州で触れたキリスト教、取りわけ清教徒精神の影響と感化に依るところが大きかつたのではないかと推察している。武士道には元々、こうした平等思想や「愛民（人）思想は希薄だからだ。ただし、全くなかつたわけでもない。「西郷南洲遺訓」に見られる「敬天愛人」の志操や哲理には、民・百姓に対する優しい愛民の眼差しに満ちていることを指摘しておきたい。

ことに注意を喚起したい。

愛国熱誠通鬼神 松陰以後見東民

一生好事向誰説 儂是東民門下人

（愛国の熱誠の鬼神に通ずるは、吉田松陰以後では新島東民（襄）にこれを見る。自分が東民先生の門下であることを何よりの幸福としていふことを誰に向かつてか語ろう。）

蘇峰、さらに評して言う。『先生は内に激しい気性を秘め、外は温良恭謙の態度を以て接し、満身これ涙、満身これ火というが如き人物』と。

また、蘇峰の友人で著名な同志社人である浮田和民という人が、「洗礼を受けたる吉田松陰、是を新島襄と云う」と評した。これに対し、蘇峰は「荒つばいが最も要領を得たる品評であろう」と述べ、「而して彼が受けたる洗礼は、月並みのキリスト教会の礼式ではなく、所謂清教徒的熱火の洗礼であつた」とも評している。

「熱誠」や「温良恭儉」、「満身これ涙」は誰しもうなずける新島評であろうが、「愛国」や「激しい気性」、「満身これ火」という新島襄の一面は、これまで捨象されがちだったのでなかろうか。

私は常々、戦後のいわゆる進歩的文化人や左翼人士の言説や論調に違和感を覚えてきた人間である。歴史や人物を「現在の価値観やイデオロギー」に照ら

とする救国済民の宗教であつたことを再度、強調しておきたい。

同志社建学の精神は、「良心教育」に存し「キリスト教主義」「自由」「国際主義」を以て教育の理念とする——とは、同志社人なら耳にタコができるほど聞かされてきたところである。しかしながら、これら一つ一つの言葉に籠められた新島先生の「含意」に、どれほど奥深い質量が内蔵されていることか……。このことに敬

恭に思いを致さなければ、単なる無味乾燥なお題目に留まつてしまふだろう。「良心」といい、「キリスト教主義」といい、その意味するところはすこぶる深遠だ。

いわゆる、「国際主義」についても、一言しておきたい。正確な表現は忘れたが、かつてインドのネール首相が来日、講演した折、「インターナショナルイズムとナショナルイズムは決して相矛盾するものではない。それどころかナショナルイズム（民族主義）に立脚しないインターナショナルイズム（国際主義）は、根無草“ナショナルイズム（国際主義）は、根無草“のようなものだ」と語つたことを想起こす。

また昭和三十年代だつたと記憶するが、柔道の天才、醍醐敏郎氏が世界に柔道の指導普及の先覚者として挺身していた頃、「良き国際人になることは立派な日本人になることだ」と一言で喝破し

して論評する。「結論」が先にあつて事実や事象の断片を繋ぎ合わせ、「型」にはめる。こういう邪な態度からは狭く歪んだ人物像や歴史観しか生まれまい。特に、新島の強烈な「愛国心」や烈々たる「武士道精神」などは、近頃の新島襄論からほとんど抜け落ちていく気がしてならない。

武士の思ひ立田の山紅葉

錦着すしてなど帰るべき——新島襄徒手空拳、一命を投じて国禁を犯し、海外雄飛の志を立てた函館での初一念（ここでも吉田松陰の密航の企てと挫折を、切なく連想させる）。それは自ら進んで外国の開明文化を取り、これを以て日本国民を教導することこそ自らの使命、と腹を固めた火の如き熱誠が胸を打つ。

類似する武士道精神と清教徒の徳目

もう一点、新島襄が明治二年、父に送つた書簡——「前略」：偏に聖人の明道を修め、我人として人間欠く可からざる道をしらしめんと存じ：（略）：如何にしてか国益を起し、民の租税を省ぎ、人々其生命を安ぜん事を望む、但し国益を起すに付き、小生いささか策無きに非ず」。

ここでは、いかに新島が「聖人の明道（キリスト教）」の神髄を修め、民を教導たことも私の脳裏に焼きついている。つまり、ひとえに「立派な日本人」になること——そのことこそ、インターナショナルな舞台で「国際人」として通用することに繋がる。自国の歴史や文化、伝統や価値観を踏まえていない、軸足無き、アイデンティティー無き、無国籍の国際人「は決して真の国際人には成り得ない」ということであろう。

「武士道」の名著で知られるキリスト者・新渡戸稲造、「武士道解題」を表した同じくキリスト者で、哲人政治家として、高名な李登輝台湾元総統——兩人共に、武士道が日本人の道德規範の根幹をなし、いかに高貴な「指導理念（ノーブル・ス・オブリージュ）」を秘め、かつ、日本人の「精神的支柱（バックボーン）」となつてきたかを熱く語っている。

新島襄——新渡戸稲造——李登輝と連なる、武士道とキリスト教が融合し醇化された「相関」関係を見るとき、「教育の根基（要諦）」がどのあたりに潜んでいるかが明らかではなかろうか。

「新島精神」こそは、世界人類が不安と混沌の危局にさらされている今日、いよいよ輝きを増し、その超克のために必要不可欠な精神的指針だと私は信じてやまない。

——完——



同志社大学 八田 英二 学長 聞き手 静岡新聞社 松井 純 社長

本稿は、親子二代同志社にきわめて縁の深い、静岡新聞社松井純社長の八田英二学長に対するインタビュー記事の抜粋である（全文掲載は平成二十三年十一月十五日、同志社タイムズ紙）。

今、われわれの母校は「同志社ルネッサンス」とも言える変革の真っ只中にある。その一大飛躍の実体を知って頂きたい、焦点を絞って紹介したい。

■「良心教育」を柱として

松井 同志社大学は、ダイナミックな教育改革を進めています。改めて建学の精神、教育理念から聞かせて下さい。
八田 本学は新島襄が1875年に京都の地に同志社英学校を設立したのが始まりです。創立者の新島が「同志社大学設立の旨意」で宣言している通り、自治自立の精神に富み、自由を尊び、「良心」を手腕に運用する力強い人物の輩出を目指してきました。建学の精神は、まさに「良心主義」です。

また、「キリスト教主義」「自由主義」「国際主義」を教育理念とし、社会に貢献できる人材の育成に取り組んでいます。「一国の良心」ともいべき人物を養成するために始まった同志社の教育は、時代が移り変わっても連綿と受け継がれています。

松井 激動の明治時代に、国際的な視野を持って同志社を立ち上げた新島先生の建学の精神、国家観、教育観には感銘を覚えます。「こころの教育」が叫ばれる中、あらためて「良心教育」の意味をかみしめたいですね。ところで、近年、同志社大学の改革には目覚ましいものがあります。学部も相当増えましたね。

八田 1949年から55年間、神、文、法、経済、商、工学部からなる6学部体制でした。2004年に政策学部、05年に社会学部と文化情報学部を設けました。08年には医学・医療分野の足がかりとなる生命医科学部とスポーツ健康科学部がスタートし、工学部を理工学部改編しました。

さらに、09年に心理学部、11年にグローバル・コミュニケーション学部を開設し、現在、計13学部となっています。

松井 相次いで学部を新設した狙いは、

八田 それは一学年1000人を超える大規模学部の再編▽社会的ニーズが高まっている従来の同志社大学になかった教育分野・研究領域への進出▽専任教員数の増員による教員一人あたりの学生数の是正-という既存の教育組織の再編を狙いとして、学生との「Face to Face」の教育を目指した対応です。

松井 なるほど。伝統に甘んじることなく、不断の進化を続ける大学とも言えますね。キャンパスの方はどうなっていますか。

八田 はい。現在、今出川と京田辺の二つのメインキャンパスがあります。京都市中心部、京都御所の北側に位置する今出川のキャンパスは、同志社の誕生の地でもあり、130年余りの歴史そのものと言えます。古都の芸術文化の伝統は、本学の学問に独自の存在感を与えています。学生たちが、この京都文化を実感する経験は、生涯の財産となるでしょう。

一方、京都府南部に位置する京田辺キャンパスは、緑豊かな自然環境に恵まれ、79万平方メートルという広大な敷地に現代建築の粋を集めた学舎が並んでいます。このような歴史と伝統、清新さを持つ教育環境の中で、外国人留学生を含め2万8000人の学生が学んでいます。

■学生の街・京都を生かした国際化教育

松井 キャンパスの再編にも取り組まれるとか。

八田 13年には今出川キャンパスを人文、社会科学系を中心にリベラル・アーツの拠点とします。京田辺キャンパスは「身体・生命・先端技術・情報」をキーワードとする教育研究の拠点に再整備します。

松井 大きな変革期ですね。

八田 そうですね。文系学部は、1年次生から4年次生まで一貫して今出川の地で学ぶことにより、学生の街・京都で「地域との連携」や「学生が生み出す文化」を体感できます。大学コンソーシアム京都が実施する他大学との単位互換制度も有効に活用出来ます。理工系学部は、スペースの制約が少ない京田辺キャンパスで最新の施設・設備の下、研究活動ができるメリットがあります。同志社大学は千年の都、伝統を礎に時代を先導し続ける京都から世界に直に情報発信していきます。

松井 国際化への対応は具体的にどう進めていますか。

八田 国際化は大学改革の柱です。今春からはグローバル・コミュニケーション学部ができ、キャンパスの雰囲気も変わってきました。また、文部科学省が打ち立てた国際化拠点整備事業(グローバル30)にも採択されています。本学における「グローバル30構想」は、外国人留学生を13年までに2200人、13年後までに3500人とする計画です。

■今春、大学院「脳科学研究科」新設へ

松井 12年4月には大学院に「脳科学研究科」を新設すると聞いてます。なぜ、脳科学を専門とする研究科を開設するのですか。

八田 大学院の脳科学研究科は、京田辺キャンパスの南部に位置し、新たな学術フロンティア拠点を目指す学研都市キャンパス(京都府木津川市)に設置する、学部を持たない5年一貫制の博士課程です。もともと本学は、創立者の新島が1887年に同志社病院、京都看護婦学校を設立した歴史があります。

近年は健康寿命や医療、介護に関する課題を解決するために生命科学系の教育、研究体制の充実を図ってきました。生命医科学部・研究科、スポーツ健康科学部・研究科、心理学部・研究科を設置してきた経緯があり、人間の総合的な理解に向け脳科学の分野に進出することを決めました。

松井 次世代を担う脳科学者の輩出は、日本の科学・技術立国にも大きな貢献が期待されてます。同志社大学の新しい挑戦ですね。

八田 脳科学研究科は、高度化する医学や医療における課題に対応出来る脳科学研究に取り組みます。従来の大学院教育にない仕組みや方法によって、世界トップレベルのサイエンティストの輩出を目指します。ここには、本学がこれまで培ってきた学術研究のレガシーがあり、新たな挑戦でもあります。

■志高く「同志社ルネッサンス」にむけて

八田 今まさに「同志社ルネッサンス」と呼ぶにふさわしい時期だと思っています。しかしどんな改革を行っても、また、大学を取り巻く環境がいかに変化しようとも、同志社大学の建学の精神は変わることはありません。新島は、親交のあった勝海舟に「大学の完成には200年を要する」と語っています。この言葉は、同志社の発展にかけた「志」の高さを物語っています。これからも「良心教育」を継承し、未来を担う国際社会に貢献できる人材の育成に努めていきます。

松井 「同志社200年の大計」に期待が高まります。今日はありがとうございました。

伝統精神を礎に京都から 世界へ 国際学術研究拠点に

同志社校友会に参加して



奥田 元樹
(平成十六年経済学部卒)

普段は余り文章を書く習慣がない自分ですが、先輩から頼まれたら「YES OR YES」の精神で筆を執りました。貴重な機会を与えていただき感謝しております。

私と同志社との関わりは、私が同志社中学に入学した時です。たまたま、母親が同志社OGであるので、ご縁という意味では、さらに遡るかもしれません。平成十六年に本学を卒業し、エーザイという会社に入社しました。その最初の配属地が札幌で、京都を初めて出るようになりました。もちろん、最初は周りに友人、知人はおりません。しかし、道産子の「余所者」にも優しい「その気質と人柄に助けられ、馴染むのにそれほど多くの時間は要しませんでした。

実際に校友会の存在を知ったのは、平成二十年、ブルデンシャル生命保険に転職してからです。大学のOB会というところ、私の祖父や祖母のような年代の方達の集まりのようなイメージですが、実際に参加し、交わっていくうちに、そのような印象はすぐに消えてしまいました。雰囲気は、とても和やかで活気に満ち、そのうえ、先輩方は私を快く迎え入れてくれました。そのときの嬉しさたるや今でも鮮明に記憶に焼き付いています。

これまでを振り返ると、今まで多くの方々とのご縁を頂き、私は助けられて生きて来れました。京都を離れ異郷の地・北海道でも多くの出会いがありました。ほんの思いつきで校友会のホームページを探したところ、これが旨くヒット、事務局の武田先輩にメールしたのが契機です。これほど多くの同志社人との出会いは、想像だにしていまませんでした。もともと北海道への永住を心に決めていた私です。この思いは校友会との関わりで一層強くなりました。

北海道支部は、全国の校友会組織の中でも特に活発な支部だと聞いています。その中で自分が役に立つことは何だろうかと自問自答しました。先輩達がこれまで築き上げてきたこの校友会を盛り上げ、私に続く後輩達に伝えていくことが私の使命・役割であると再認識しました。

この先の十年後も、さらに二十年後も現在のよう活発な支部であることを祈りつつ、微力ながら今後も校友会活動に邁進することで、これまでのご恩に報いたいと覚悟を新たにしました。今後も引き続き宜しくお願いいたします。

近年ではホームページやメーリングリストを活用し、速くそしてローコストで情報交換することが当たり前となっています。当会の活動もそれらにより活発化しています。

また、校友にはホテル関係者もおり両者とも互いの有効活用を期し、隔月の月例会はホテルを利用して、旬や道産食材を大切に、季節の料理と愉快的な空間を提供しています。



良心碑

- | | | |
|------------|---------------|---|
| 1月 | 20日 | 新年会
例年札幌の和の名店「和乃八窓庵」で行います。今年は43名で新年を祝いました。 |
| 2月 | | 例年スキー部練習会が実施されております。
2010のスキー部発足により、合宿や子供達と一緒にスキー遠足を企画しています。 |
| 3月 | 16日 | 弥生例会
「ラ・プロヴァンス」にて実施、17名出席。月例会は奇数月の第3金曜日18:30から行っています。 |
| 4月 | | 洛紫会
月例会の無い偶数月は、幹事や委員会委員長がメーリングリストを使い洛紫会を開催します。
4月は歓送迎会に忙しい月です。
(ゲリラ会:ゲリラ的におこなようになってからこの名前がつけました「ゲリラ会」の名に馴染みがあるのですが支部長から「品がないので洛紫会と呼べ」と言われ、今では表向き「洛紫会」と言っています) |
| 5月 | 18日 | 阜月例会
「美麗華」にて実施。例年中華料理を提供しております。総会前ですので集まりが悪い例会の一つです。 |
| | 27日 | 同立戦(千歳空港CC)
例年5月から6月にかけて立命館との学校対抗ゴルフコンペを開催しています。会場は関西六大学札幌OB対抗戦開催ゴルフ場を選定しております。
同立戦では負けた側が、勝者にお礼を言いながら「お見送り」する罰ゲームがあります。 |
| 6月 | 2日 | 同志社懇親会
「ルネッサンスホテル」にて実施。同志社校友会は女子大や各学校を含んでおります。総会と呼ばず「懇親会」と称し、集い易い雰囲気醸し出すようにしています。 |
| | 3日 | 北海道家庭学校訪問 留岡幸助物語「大地の詩」の舞台を訪問します。 |
| 7月 | 15・16日 | アウトドアコミティー
アウトドアコミティーが企画するキャンプです。(場所は羊蹄山麓) |
| | 20日 | 文月例会
樹徳会のビール会に相乗り予定です。 |
| 8月 | 8日 | 第13回 関西六大学札幌OBゴルフ対抗戦(千歳空港CC)
今年は当校が幹事校を仰せつかっております。昨年は124名が参加、同志社は3回優勝しております。 |
| 9月 | 21日 | 月見例会
9月を旧暦表記すると長月です。ホテルの立て看板に同志社長月例会と書いたところ、同志・社長例会と読めてしまうので「月見例会」としました。月の良く見える地上23F「和乃八窓庵」で行う予定です。 |
| 10月 | | 三好杯争奪ゴルフコンペ
故三好支部長に敬意を表して三好杯争奪ゴルフコンペが企画されております。 |
| 11月 | 11日 | 関西六大学札幌OB懇親交流会
懇親交流会は当年度の関西六大学対抗戦優勝校が幹事をします。当月は樹徳会総会・小樽クラブ総会と忙しい月となっております。 |
| 12月 | 15日 | クリスマス会
第2土曜日に照準を合わせ、クリスマス会が行われ、例年会員家族を含めて120名程度の出席を頂いております。子供たちにはクリスマスプレゼントとお菓子が漏れなく当たります。瘦ッチョのサンタや太ったトナカイが愉快的な会話をしながら狭い会場を走り回ります。 |

<http://doshisha-sapporo.org>

行事予定の詳細はホームページに最新情報を掲載しております、確認をお願いします。